

学校評価結果

令和6年度2学期終わりに、本校教員による学校自己評価アンケートを実施しました。テーマは、「自分自身や学校全体のあり方」「IT機器の活用」についてです。その結果をもとに、本校の学校関係者にご協力をいただき、関係者評価を実施しました。結果を簡単にまとめて報告します。

本文、表中に記載されている数値は質問項目に対する回答の平均値であり、本校教員の考えの概ねの傾向を示しています。質問項目ごとに「あてはまる度合い」について1～5ポイントで評定をつけ、項目間で比較できるようにしています。

表1. 評価が比較的高い項目(高い順)

生徒の成績評価は客観的な基準に基づいている	4.30
授業内容の選別にあたって、生徒の将来の進路を考慮している	4.25
生徒について教員間で情報交換を行い、情報の共有に努めている	4.02
生徒のさまざまな面での発達を促すよう心掛けている	3.93

1. 自己評価

「自分自身のあり方」「学校全体のあり方」および「IT機器の活用」について、30項目のポイント評定の質問と3項目の自由記述での質問を行いました。

○評定の高い項目(表1)

表1の評定からは、日々の授業や成績評価など生徒に直接関係する業務について、適切に取り組んでいることへの自負が見えます。また、「教員間での情報交換」の評定が高いことから、生徒の状況を把握し、一人一人に寄り添った関わりをめざそうとするあり方が読み取れます。

表2. 評価が比較的低い項目(低い順)

防犯・事故対策等、安全管理については、満足できる状況にある	2.62
本校において、IT機器の活用は十分である	2.93
学校は、国際化社会や時代の中で適切な方向性を志向している	2.95
授業において、IT機器の活用を行っている	3.00

○評定の低い項目(表2)

評定の低い項目のうち、「IT機器の活用」に関するものが複数あります。後掲の自由記述でも多様な意見が見られたように、多くの教員が注目しているポイントであると言えます。また、本校が「国際化社会や時代の中で」めざすべき「適切な方向性」についても、今後、学校全体で検討を進める必要があります。

また、「安全管理」の高度化も今後の課題と言えるでしょう。

○自由記述について

前向きなものとしては、「教科特性を活かした」教材の開発や「生徒の理解」に合わせた授業の運営に取り組む意見が見られました。

また、「本校だからこそ培うことができた能力や人間性」など、いわゆる非認知能力の涵養を可能にする本校のカリキュラムを肯定的に捉える意見も見られました。

他方、「IT機器の活用」については非常に多様な意見が得られました。その強みを生かして「授業」や「業務効率化」に活用できるという意見もあれば、学習以外の使い方への「依存」を心配する声もありました。生徒の自主性を尊重しつつ、全体としての望ましいあり方を模索する必要があるでしょう。

また、「部活動の業務」の負担の大きさなどの「労働環境」に着目した意見や、スキルアップをめざして「研修の機会」を求める意見もありました。

2. 関係者評価

「自分自身や学校全体のあり方」「IT機器の活用」のそれぞれの妥当性について、平均して3.8ポイントの評価をいただきました。

また、有益なご意見やありがたい感想を多数いただきましたので、一部ご紹介します。「授業の在り方がそれぞれ生徒の習熟度に合っていることがわかり、高く評価される」、「真剣に考えて良くしていこうとされているように感じました」、「各教師間の情報交換は大切」、「過去の調査から毎回評価が下がっている項目については対策を講じられたり議論していただけたらと思います」、「ネットリテラシーやネットモラル向上のための機会を設けていただきたいと感じます」、「教育環境を育むのは、生徒と教員、教員同士、教員と管理職、すべてに渡って相互の信頼関係であり、いかに時間がかかろうが、その信頼関係を何とかして醸成するために腐心する姿勢を保ち続けて欲しい」など、時に厳しいながらも、温かい目で見守っていただいていることが伝わります。

3. 終わりに

今回の自己評価は「自分自身や学校全体のあり方」「IT機器の活用」に関するものでした。生徒と教職員にとつて、より有意義な学校生活のあり方を考える機会となりました。今回の評価結果や多数の意見を、今後の学校運営へと生かしていきたいと思えます。